

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

| 達成度（評価） | |
|---------|-------------|
| A | 十分達成できている |
| B | おおむね達成できている |
| C | やや不十分である |
| D | 不十分である |

| | |
|---------------|--|
| 学校名 | 嬉野市立久間小学校 |
| 1 前年度 評価結果の概要 | <p>【学力の向上】・・・国語科の校内研究では、はがき新聞作成を言語活動として取り入れるなどしてNIE教育に取り組んだ。市の学力向上推進事業を兼ね全クラスで授業を行い、説明的文章の読解について研究を深めることができた。ICT利活用については、職員の意識も高まり、タブレットの活用も徐々に進んでいる。</p> <p>【心の教育】・・・人権・同和教育においては、毎年、様々な取組を行うことで児童の人権意識の向上が感じられる。ネットリテラシーの研修を充実させたい。</p> <p>【健康・体づくり】・・・食に関しては、家庭の協力もあり健康的な食生活ができていた。目標をもたせることや運動に取り組みやすい環境を整えることで運動習慣を定着させたい。</p> <p>【業務改善】・・・毎週金曜日の定時退勤日（完全消灯日）等の取組により、時間外自発勤務の時間は減っている。業務に新たなアプリを導入するなど、更なるICTの利活用を図りたい。</p> <p>【地域連携】・・・久間地域コミュニティとの連携により体験を通しての教育活動ができた。また、PTAの組織改編により保護者の全員参加による活動ができた。継続させていきたい。</p> |

| | |
|----------|--|
| 2 学校教育目標 | いきいき久間っ子の育成 くま・・・工夫して学ぶ子 つ・・・強くてたくましい子 こ・・・心やさしい子 |
|----------|--|

| | |
|------------|--|
| 3 本年度の重点目標 | <p>【学力の向上】・・・小中連携による学力向上推進事業の基、久間メソッドや家庭学習の手引きの活用により学習規律や家庭学習の習慣をおおむね確立させることができた。また、校内研究を柱とした「自分の考えを形成し、主体的に伝え合う児童」を育てる取組では、思考ツールの活用により一定の成果を上げることができた。今後、思考ツールを活用する場面を増やして自分の考えを形成させるとともに、それを基にした交流活動の充実に取り組んでいく。</p> <p>【心の教育】・・・「ほめるから、ほめる。」を第一に考え、ほめて力を伸ばす教育に取り組んだ。人権教育やいじめ防止教育、キャリア教育、縦割り班による異学年交流活動等に取り組むことで友達に対する思いやりの心や自己有用感を育むことができた。いじめ事案についても担任の見取りやアンケートにより早期発見と早期解決に努めることができた。地域やPTAとの連携も盛んであり、学校と家庭、地域で子供を育てることができている。次年度もこれらを継続していく。</p> <p>【健康・体づくり】・・・「自分の命や健康は自分で守る」意識を高めるため、基本的な生活習慣の確立や健康教育に取り組んだ。就寝時刻など望ましい生活習慣の形成において、十分とは言えなかった。望ましい生活習慣や食習慣を身に付けさせられることができるように家庭への啓発活動を進めていく。</p> <p>【業務改善】・・・定時退勤日の設定など効果が見られる取組もあるが、時間外在校等時間が360時間を超える職員が複数人見られた。継続的な声かけや指導を行うとともに学校行事等の精選を行うなど業務改善と働き方改革に努める。</p> |
|------------|--|

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

| 重点取組 | 重点取組内容 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 |
|-----------------------|--|---|--|---|--|--|--|---|---|-------|
| | | | | 進捗度 (評価) | 進捗状況と見直し | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| ●学力の向上 | ○全職員による共通理解と共通実践 市小中連携学力向上推進事業による学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践 | ○「嬉野メソッド」に基づく授業づくりに取り組んだ」と回答した教師の割合85%以上 ○「小中連携」による学力向上に取り組んだ」と回答した教師の割合80%以上 | ・職員会議で「久間メソッド」についての確認と全職員での問題解決型授業の実践を行う。 ・国語タイムや算数タイムで知識の定着と活用を図る。 | B | 「久間メソッド」に基づく授業づくりに取り組んだ」と回答した教師の割合は、80%以上だった。交流タイムや振り返りなど共通理解を図る必要がある。 ・国語、算数タイムは、使用教材を厳選したことで、学習の補充時間を確保できた。 | A | 「久間メソッド」に基づく授業づくりに取り組んだ」と回答した教師の割合は、90%以上だった。研究授業を通して、交流タイムや振り返りなど共通理解を図り、実践につなげることができた。 ・国語、算数タイムは、継続して行い、学習の補充時間を確保できた。 | A | ・指導法の工夫・改善がなされ、当初の目標をほぼ達成しているものと思われる。結果として、高学年の学力は、ほぼ全国平均を上回っている。 | 工夫P |
| | ○タブレットの活用の推進 | ○「タブレットを活用することで、何かを調べたり発表したりして学習に生かすことができた」と回答した児童の割合80%以上 | ・ミラインドを活用したドリル学習に取り組ませる。 ・画像や情報などのデータの活用を図る。 ・各教科の特性に応じた活用方法(ソフト等)について職員研修を行う。 | A | 「タブレットを活用し、学習に生かすことができた」と回答した児童の割合は、80%以上だった。ミラインドを活用したドリル学習や画像や画像などのデータ活用ができていた。引き続き活用の様子や学級通信等で発信していく。 ・夏休みにタブレットの活用方法(ソフト等)について職員研修を行った。 | A | 「タブレットを活用し、学習に生かすことができた」と回答した児童の割合は、80%以上だった。ミラインドを活用したドリル学習や画像や画像などのデータ活用ができた。 ・タブレットの活用方法(ソフト等)について職員研修を行い、タブレット活用の幅が広がった。 | A | ・ソフトウェアの能力は、日進月歩、向上しているため、毎年、職員研修は欠かせない。多忙な中ではあるが、教職員同士の情報を共有し、指導力向上につなげて欲しい。 | 工夫P |
| | ○校内研究の充実 自分の考えを形成し、主体的に伝え合う児童の育成 | ○「自分の考えをもって交流活動に参加している」と回答した児童の割合80%以上 | ・自分の考えを整理するための手段(思考ツール活用)の研修を行う。 ・学習のめあてにつながる伝え合い活動の場を工夫する。 ・全クラスで授業研究会による実践研修を行う。 | B | 「思考ツールを活用した教材研究を行った。交流タイムの流れや振り返りについて確認をし、提示を行う。 ・全クラスで授業研究会による実践研修を行う予定である。 | A | 「思考ツールを活用した教材研究を行った。交流タイムの流れや振り返りについて確認をし、学習環境を整えた。 ・計画的に授業研究会を行い、伝え合い活動の充実にも努めた。 | A | ・取組の結果、ほぼ90%以上の子供たちが自分の考えをもって活動に参加しているものと思われる。 | 工夫P |
| ●心の教育 | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○「自分にはよいところがある」と回答した児童の割合90%以上 | ・年間2回の人権集会や年間を通した縦割り活動を充実させる。 ・日常における児童の善行に対して賞賛(立ち止まってあいさつ・時間いっぱいそうじについてのバッジの進呈)をする。 | A | 「自分にはよいところがある」と回答した児童の割合は、90%以上だった。今後「人権集会」や「いいねの木」の取り組みをしていく中で、さらに、自分の良い所を発見したり、賞賛したりすることで、自己肯定感を高めていく。また、他者への意識を高めた友達の良さに刺激を得て、自分の入格を高められる児童に育てていく。 | A | 「自分にはよいところがある」と回答した児童の割合は、93%以上だった。「人権集会」や「いいねのプレゼント」の取り組みを通して他者への意識をもち、友達の良さに刺激を得て自己肯定感を高めた。あいさつは校内では活発にできるようになっていたが、学校外でも波及させていくことが課題で、全校朝会や全校放送で呼びかけていることを来年度も引き続き行っていく。 | A | ・人権集会をはじめ、充実した指導がなされており、大きな成果は称賛に値する。「豊かな心、思いやりの心」は生涯にわたって大切なものであり、財産である。「人」を育てる重要な指導と思われる。 | 心P |
| | ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 | ○「友達の気持ちを考えた発言や行動をしている」と回答した児童の割合80%以上 | ・年に2回以上の児童との面談や定期的なアンケートを実施する。 ・「心のポスト」を設置し、いじめ問題の早期発見、早期対応に努める。 ・児童への情報モラル教育の実施や保護者への情報モラルについての啓発を行う。 ・学期に1回以上の構成的グループエンカウンターなどを取り入れた授業実践を行う。 | B | 「友達の気持ちを考えた発言や行動をしている」と回答した児童の割合90%以上だった。児童との面談や定期的なアンケートを実施し、いじめ問題の早期発見、早期対応に努めている。友達とのトラブルが発生する児童がいたため、今後も、構成的グループエンカウンターなどを取り入れた授業実践を行い、円滑な人間関係の形成に努める。 | B | 「友達の気持ちを考えた発言や行動をしている」と回答した児童の割合83%以上だった。児童との面談や定期的なアンケートを実施し、いじめ問題の早期発見、早期対応をした。今後も構成的グループエンカウンターなどを取り入れた授業実践を行い、円滑な人間関係の形成に努めていく。友達とのトラブルが発生する児童が固定化しているため家庭への啓発も課題である。 | B | ・一部に家庭的な課題をもつ場合もあるが、全体的に「相手の気持ちを考えた発言や行動をしている」子供がほとんどである。指導の成果はあっている一方で、継続した地道な指導が重要と思われる。 | 心P |
| | ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組むようとするための教育活動。 | ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童の割合80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童の割合80%以上 | ・教師は、児童のよさを認める言葉かけに努めると共にノートやワークシートにほめ言葉を残す。 ・キャリアパスポートや行事作文での取組を通した短期目標と長期目標の意識化させるとともに振り返り活動を充実させる。 ・学級活動、学級通信等で夢や目標を紹介する。 ・高学年において、「職業学習」等を取り入れたグローバルデーの取組を行う。 | A | 「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童の割合が、90%以上だった。授業の中でも、お互いを認め合える活動に取り組んでいる。 ・キャリアパスポートや行事作文での取組を通した振り返り活動を行った。 ・学級活動、学級通信等で、家庭と連携をしながら、児童の頑張りを認めることができるよう努めている。 | A | 「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童の割合が、90%以上だった。授業の中でも、お互いを認め合える活動に取り組むことができた。 ・キャリアパスポートや行事作文での取組を通した振り返り活動を行った。 ・学級活動、学級通信等で、家庭と連携をしながら、児童の頑張りを認めることができるよう努めた。 | A | ・「褒めて育てる」指導が功を奏している。このことにより将来の夢や希望、目標が膨らんでいる子供が多いものと思われる。 | 工夫P |
| ●健康・体づくり | ●「運動習慣の改善や定着化」 | ●「授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間でも420分以上」と回答した児童の割合70%以上 | ・縦割り共遊やがんばるマラソン、久間リニック、スポーツチャレンジなど全クラスで取り組む。 ・委員会活動(体育)や放送による外遊びを推奨する。 | A | ・久間リニックは、体育委員会や6年生を中心に実施した。異学年での交流の機会にもなった。 ・「授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間以上」である児童は、86%と前年度の結果より良かった。引き続き、外遊びの推奨をしていく。 ・登下校は、ほとんどの児童が、歩いてきている。 | A | ・久間リニックは、体育委員会や6年生を中心に実施した。今年度は、活動後すぐにバッジを渡した。認定された児童がバッジを付けて歩くことで、他の児童の意欲付けに繋がった。 ・「授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間以上」である児童は、86%と中間評価と同様に高い割合を維持した。 | A | ・体づくり、体力の維持・向上のための取組は有効と考える。健康が第一である。 | 強い子P |
| | ●「望ましい生活習慣の形成」 | ●「低学年は9時まで、中学年は9時30分、高学年10時まで寝ている」と回答した児童の割合80%以上 | ・生活・家庭学習チェックシートや長期休みの生活習慣チェックシートに取り組む、生活リズムが崩れないように啓発する。 | B | アンケートで「決められた時間までに寝ている」と答えた児童は、80%だった。生活習慣に関するアンケートでも個人差がみられたため、今後、全体指導に加え、個別の指導を行っている。家庭への啓発も必要である。 | C | アンケートで「決められた時間までに寝ている」と答えた児童は、76%と中間評価より下がった。また、保護者アンケートより家庭の睡眠に対する意識も下がっていることが分かった。今後も、お便り等で家庭への啓発を続けていく。 | B | ・生活形態が多様化する中で、家庭によっては、生活の乱れが生じていることもあるので、根拠強い啓発活動の継続が必要と思われる。 | 強い子P |
| | ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 | ●「健康に良い食事をしている」と回答した児童の割合80%以上 | ・栄養教諭と協力して、食育に関する指導を全学年で行う。 ・食習慣に関する保健だよりを発行を行い、より良い食習慣についての啓発を行う。 | A | アンケートで「給食を残さず、バランスよく食べている」と答えた児童は、92.2%だった。実際は、給食の好き嫌いはまだ個人差があるので、指導が必要である。 ・今年度は、全学年で食育教室を実施している。取り組みの内容も、学級通信などを通して行い、啓発につなげていきたい。 | A | アンケートで「給食を残さず、バランスよく食べている」と答えた児童は、94%だった。十分達成できているので、これからも指導を続けていく。 ・今年度は、全学年でその学習に応じた食育の授業を実施した。その結果、児童の食に対する興味や向上し、給食でも学習を学ぶことができていた。来年度も、続けていきたい。 | A | ・食育指導の結果、よい食習慣が身に付いている。ただ、「学校では食べているが、家庭では食べていない」という保護者評価があったので、家庭とも連携を密にする必要がある。 | 強い子P |
| ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守(月45時間、年間360時間) ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 | ・毎週金曜日の定時退勤日と月1回の完全消灯日を設けるとともに職員会議等でワークライフマネジメントについて指導する。 ・業務記録票を基に時間外自発勤務が多い職員には、管理職から業務の効率的な遂行や早めの退勤について声掛けや指導を行う。 | C | ・教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守できたと回答した職員が61.6%と少なかつた。業務内容を見直したり、業務の効率的な遂行について声かけたりして業務改善につなげていきたい。反面、「自分の働き方に対する意識改革ができた」と回答した職員が92.3%と高く、働き方改革を意識して業務に取り組もうとしている職員が多い。 | B | ・教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守できたと回答した職員が81.6%から71.9%と若干増えた。先生方が、多忙な中にも少しでも業務改善に努めた結果だと考えられる。今年度は、業務の効率的な遂行について声かけはもちろぬ、教育課程(年間指導計画・校時表、学校行事等)を見直し、「ゆとり」時間を創出するような工夫も行ってほしい。 | B | ・難しい状況の中で、より業務改善に努めている。更なる効率化を促す、ゆとりを削ぎたい。また、学校内でだけではない、家庭でもゆとりを確保する必要があるため、国の施策や取り組みを参考にしたい。 | 教頭 | |
| ●特別支援教育の充実 | ○配慮が必要な児童の実態把握、合理的配慮の提供、校内支援体制の充実 学習環境や授業のUD化 | ○「私は、全ての児童に効果的な視覚支援を取り入れた授業や、多様性を尊重した指導を心掛けている」と回答した職員の割合80%以上 | ・毎週、配慮が必要な児童の共通理解・実態把握を行い、それに基づいた校内の指導体制を構築する。 ・通常学級において合理的配慮を提供(視覚支援の充実・学習のすずめ方や道具類等の系統性をもたせた指導)する。 | A | ・「効果的な視覚支援を取り入れた授業や、多様性を尊重した指導を心掛けている」と回答した職員の割合では、100パーセントだった。毎週、要配慮児について共通理解・実態把握はしている。校内研修・感情を育てるを行った。今後は、研修で得た知識を生かして、行動→認知→感情をつなぐ実践を各自していきたい。児童の指導・支援に生かしていく。 | A | ・「効果的な視覚支援を取り入れた授業や、多様性を尊重した指導を心掛けている」と回答した職員の割合では、100パーセントだった。校内研修の一環で特別支援学級と通常の授業を全校の教師で参観した。通常学級や支援学級での視覚支援による変更を見てもらい、通常学級での支援のヒントを提示した。また、困り感をもつ児童の指導支援につなげるため、共通理解をしている。 | A | ・教職員の努力の賜物であると考ええる。 | 心P |

| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 | | | | | | | | | | | |
|----------------------|----------------------|--|----------|---|----------|--|------|---|---------|------|-------|
| 評価項目 | 重点取組 | | | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 |
| | 重点取組内容 | 成果指標 (数値目標) | 進捗度 (評価) | | 進捗状況と見直し | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | | |
| ○地域連携 | ○保護者・地域コミュニティとの連携 促進 | ○「地域コミュニティや地域の教育力を活用した実践を計画的に行っている」と回答した教員の割合80%以上 | A | ・今年度も、年間計画を作成し、計画的に地域コミュニティ活動に取り組むことができていた。活動によっては、地域の方を担任の先生と打合せを行い、共通理解しながら実施することができた。 ・夏季休業中の学習会「久間っ子寺屋」では、コミュニティの方に加えて保護者の方にもサポートを依頼した。家庭に呼びかけることで、地域・家庭・学校の三者が連携した取組を実施することができた。今後も、続けていきたい。 ・活動については、学校だけでなく学級通信での情報発信や学校HPによるブログ「久間っ子ニュース」による発行も行っている。 | A | ・年間を通して、計画的に地域コミュニティ活動に取り組むことができた。 ・教員の9割が「地域コミュニティや地域の方を活用した実践的な取り組みができた」と評価しており、学んだことを他教科や日常生活に生かす児童の姿も見られたことから、横断的な学習を実施することができた。 ・活動の様子を学級通信や授業参観を通して保護者に伝えることで、家庭との情報共有を図ることができた。また、学校便りや学校ホームページ「久間っ子ニュース」を継続して発信することで、地域に開かれた情報発信を行うことができた。 | A | ・子供たちはや保護者から高い評価を得ている。地域サポーターの数も増え、支援力が向上しているものと思われる。今後も、学校と地域の良い関係がずっと続くことを願っている。ただ、教科学習指導時間も確保する必要があり、全体を俯瞰して、必要に応じて再検討することも重要かと思われる。 | A | 教務主任 | |

| | |
|----------------|--|
| 5 総合評価・次年度への展望 | <p>【学力の向上】・・・国語科の校内研究では、「思考ツール」を使用し、自分の考えを整理させたことで、自信をもって話し合い活動に参加する児童が増えた。次年度も「思考ツール」を研究し、活用を広げていきたい。ICT利活用については、情報コーディネーターを中心に職員研修会を開催し、タブレットの活用を広げることができた。</p> <p>【心の教育】・・・教職員が、「褒めて育てる」指導を心がけたり、児童同士が互いの良さを認め合う活動を仕組んだりしたことで自己肯定感を高めることができた。次年度も「相手意識」を考えて行動することができる児童を育成するための取組を行ってほしい。</p> <p>【健康・体づくり】・・・委員会の児童を中心に活動を仕組むなど、児童が主体的に運動する環境を整えることができた。「望ましい生活習慣」については、保護者との連携を更に深めていく必要がある。</p> <p>【業務改善】・・・完全定時退勤日を設定したり、管理職からの日々の声掛けを行ったりして時間外自発勤務の時間は減っている。しかし、大幅な効果までは見られなかった。生成AI等のICT利活用を行ったり、学校行事や校時表等の見直しをしたりして更なる業務改善に努めていきたい。</p> <p>【地域連携】・・・久間地域コミュニティとの連携を密にし、地域体験学習を充実させることができた。学校ではできない貴重な体験を通して地域を愛する心を育むことができた。今年度は、地域体験活動の教育的意義を再度確認して、目的を見据えた活動になるように計画していきたい。</p> |
|----------------|--|

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ○・・・志を高める教育